私の現場主義

ガーナの野口記念医療研究所で評価試験を実施

(株)PHILIA
代表取締役
村山 陽子さん
MURAYAMA　Yoko

1965年長野県生まれ。早稲田大第二文学部卒。水質浄化関連の装置メーカーや貿易会社などを経て2008年4月に(株)PHILIAを起業。10年4月から(株)ゼロモズジャパン専務を兼任

マラリアやデング熱の対策に貢献したい

感染症を媒介する蚊の発生抑制剤をアジアやアフリカで展開

マラリアを媒介するハマダラカや、デング熱・黄熱を媒介するヒトスジシマカといった蚊の発生を抑制する製品「ZERO－MOZ（ゼロ－モズ）」をアフリカやアジアの途上国に展開しています。

ZERO－MOZを水中に投与すると、蚊のホルモンバランスを崩すことができます。すると例えば卵の場合は幼虫に成長できず、幼虫の場合はサナギになることができません。成虫がこの水に触れると、弱って死んでしまいます。マラリアを媒介する蚊そのものの発生を抑えてしまいますので、対策において非常に有効な製品であると考えています。

現在主流の蚊帳や防虫スプレーなどの対策と組み合わせれば、より大きな効果が期待できるでしょう。

１％の殺虫成分が入っていますが、分析機関に依頼して人間や動物、魚、植物といった他の生物にも害がないことを確認済みですので、安全性の高い製品です。１錠当たり２～５トンの水量に対応可能で、いったん投与すれば、約６カ月間効果が持続します。

もともと（株）ゼロモズジャパン（熊本市）が開発したものですが、その開発中、たまたまアラブ首長国連邦（UAE）で開かれていた環境関連の展示会で同社の関係者と知り合い、「完成したらぜひ私にも取り扱わせてください」とお願いしたのが製品との出会いです。今ではアフリカとアジア地域の一部での事業展開を任されています。

大学時代に開発教育を学ぶなど、もともと国際協力に関心を持っていました。社会人になってからもいつか国際協力関連の仕事をしたいと考えていましたので、「これでアフリカのお役に立てる」と思ったものです。

展開にあたっては試行錯誤している状況ですが、すでにガーナの野口記念医学研究所ガーナ大学医学部、マレーシア薬品研究所、スリランカの検査機関などに製品の分析をお願いし、その効果について良い結果が得られました。これから日本の企業や大学、研究機関などと連携して、本格的に展開したいと考えています。

例えば９月にはガーナを訪れ、野口記念医学研究所や同国の厚生省と同国での展開について相談する予定です。また、スリランカでは、同国の厚生省や国立病院、保健所などと連携し、今後１年を掛けてモニタリング調査を実施する計画を進めています。マレーシアやシンガポールでも市場調査を行いました。

１個当たりの価格は途上国においては比較的高価なのですが、投与対象の水の量に応じて小さく砕いて使うこともできます。現行製品に比べ効果範囲は狭いのですが、安価な製品も現在開発中です。

マラリアの感染者は住友化学のオリセットネットをはじめ蚊帳などこれまでの対策のおかげでだいぶ減ったとはいえ、まだ年2.2億人が感染し、66万人以上が死亡すると言われています。この製品を使って引き続き対策に貢献していきたいです。